地域おこし協力隊OB
濱崎雄治さん

目先の便利さよりも、生きやすさを追求していく

「ハマさん」の愛称で親しまれる濱崎雄治さん。坊主頭に愛嬌たっぷりの笑顔と黒いエプロンがトレードマーク。南阿蘇村地域おこし協力隊を経て定住し、2020年に洋食レストランキッチンボルケーノを開店。オリジナル配合のスパイスが味の決め手である『ボルケーノキーマカレー』をはじめ、地元産野菜をふんだんに使ったメニューを提供します。今年4月に大字中松へ移転オープンし、新たなスタートを切ったところです。

キッチンボルケーノ／中松1231番地
TEL090 (4357) 9393

濱崎さんが料理の道に入ったのは19歳のとき。特に興味があったわけではなくまったくの偶然からでしたが、次第に「料理が楽しい」という思いが芽生え、大阪などの飲食店で学びを深めるまでになります。ところが、怪我をきっかけにその世界から遠ざかることに。濱崎さんが料理というコンテンツを改めて見つめなおし、「料理で生きていく」と強く心に定めるまでに、それから10年以上の時を要します。

転機は会社勤め13年目。「自分にできることを、自分の責任でやりたい」。会社を退職後、出身地である熊本市内の飲食店で働きながら、自分の店を持つという目標を達成するために動き出した濱崎さん。飲食店を開くなら人口の多い地域で。そう考えるのが妥当に思えますが、濱崎さんが重視したのは暮らし。「不便さがあったとしても、気持ちよく生きていける道を」。心が向かった先は、会社員時代からよく訪れていた南阿蘇村でした。カメラが趣味の濱崎さんにとっては、美しい星空を思う存分楽しめる地域であることも移住を後押しする要素になったそうです。地域おこし協力隊としてプロジェクトに従事する傍ら、店舗で提供するメニュー開発などにも勤しみました。

濱崎さんの軸は、開店当初から地元にありました。コンセプトは、「地元の人が楽しく交流できる空間」。店は、濱崎さんが地域の人たちとつながるツールのひとつでもあるようです。「『うまかったよ！ 来てよかった』というお客さんのひと言が、何よりうれしい」くしゃっと笑った濱崎さんの顔からは、南阿蘇村で充実した時間を過ごしていることがうかがえます。

濱崎さんの写真コレクション
（写真提供／濱崎さん）
左／手を伸ばせば触れられそうな星空。街灯の少ない場所に行けば、肉眼でも容易に天の川を観察することができます。
中・右／ 5月下旬から6月上旬にかけて、村内の水源には群れ飛ぶホタルの姿が。時間を忘れてしまうほど、幻想的な光景です。